

第4回 岡崎市緑の基本計画策定委員会 議事録

日 時：令和2年1月29日（水） 14時00分～16時00分

場 所：岡崎市役所西庁舎5階501号室

出 席 者：

【策定委員】

今西委員長、松本副委員長、近藤委員

オブザーバー参加： 三矢氏

【事務局】

靱井都市整備部長

公園緑地課：横山課長、高橋副課長、河合主任主査、高橋主事

(株)エイト日本技術開発：村山、北畠

議事内容は以下のとおり。

1. 開会

挨拶・資料確認（事務局）

2. 議事

2.1 基本理念について

【説明】

【質疑応答】

松本委員：

総合政策指針のほうの理念、これは「一步先の暮らしで三河を拓く」ということで、これは岡崎市全体としての指針になるのですが、緑でいうとこれらはこういったイメージになるのですか。

事務局：

事前に松本先生にお伺いした時もそれを緑に置き換えるというところから緑だね、というお話をいただいて考えていたのですが、一步先というのが快適な暮らしとか、そういったイメージで、それに対して緑の多面的な機能、グリーンインフラというのはこのように役立つ、そういったものを利用していくことを改めて考えて取り入れていくというところなのかなと公園緑地課として考えております。

緑の多面的な機能を発揮させてそれが人々の生活、暮らしにつながっていくというところから緑を主眼にして安心、魅力がある、魅力が出てくるまちというものにつなげていくというのがこれからの一步先の暮らしに関する緑ではないかと考えておりますが、ほかの意見があったら教えていただけたらと思います。

松本委員：

あって当たり前だった緑を、高度経済成長時代には振り返ることなく意識することなくきて、今の時代に振り返って多面的な機能がよくわかる、改めてそこを意識してグリーンインフラというのがあるが、そういった位置づけで緑を大事にしてそこで豊かな暮らしを実現する、それが一歩先なんだというのはいいと思います。

近藤委員：

今の緑でいうところの一歩先、のイメージとグリーンインフラという言葉が新しい感じがするので使いたくなるのはわかりますが、単純に緑というだけで考えてもいろいろな一歩先の取り入れ方があると思います。今現在の一番注目される緑の使い方としては、グリーンインフラのように防災的な面で災害があった時に役に立つとか、集中豪雨のときに水をちゃんと流せるような緑だったりとか、気候変動に対応できる緑だったりとか、そういう面で緑の役割が大きく見直されている。それと暮らしの面で植物がある暮らし緑がある暮らしが豊かなものかというのが見直されている。いままであって当たり前だったものが災害などの問題にあたったことで見直されてきているということです。

一歩先の次にあたって、緑に何を期待するのか、どういう緑を身近に置いたら豊かな暮らしになるのかというのを考える良いきっかけになると思います。

広い視点で見たときに、緑の配置の仕方だとか機能的な動かし方を考えていくのが行政の役割と思っています。

もう一点、観光という意味でも岡崎市はかなり豊かな神社仏閣があって、なかなか作れないような大きな木だったり広い緑地だったりがある。それを生かしながら緑の質を維持するとか、さらにその質を高めることで観光都市としてももっと発展できるのではないかと思います。

緑がないと一歩先には行けないと言うくらいの緑の価値を重視するような理念になってもいいのではないのでしょうか。

三矢オブザーバー：

一歩先にという話で一歩先の暮らしと緑を掛け合わせるということで、イメージしたのは持続可能な、という言葉です。持続可能というのは次世代の暮らしが豊かになる、エネルギー消費の削減というのをイメージしがちだけれど、本来の緑が持っている価値を十分見直したりすることによって一歩上の質の高い暮らしが得られるという観点があるのではないかと思います。

今回の資料の理念案 1 から 6 というところに触れると、私は岡崎生まれなので、岡崎＝歴史、文化、お寺もいっぱいあることから、「風格」「醸す」みたいなキーワードがあると。前回の計画では、歴史、文化というキーワードがありました。

寺社仏閣は緑が多くオープンスペースが大きく、非常に重要なものなので、そういったものをもっと意識して理念を固めていったらいいのではないかと思います。

今西委員長：

緑と一歩先、ということですがこれらの理念は当然政策指針に繋がっていないといけないもので

す。広い意味とか広域的な観点でいうと、グリーンインフラを含めた多面的な機能が役に立つのだというところと市民に近いところで暮らしの中にどう生かしていくんだという部分。一歩先というのは将来ですから、持続可能な部分ですね。

また最終的に一番盛り込みたいのは岡崎市らしさなんです。(理念案は) さっと読むとこの都市でも使えるキャッチフレーズなので、どうやって岡崎市らしさというのを出すかというのが一番のキーポイントかなと思います。観光や歴史文化の話が出ましたが、そういったものがイメージできるようなそういう理念が求められると思います。

さらに都市マスと総合指針に対して横並びでいかないとならない、こちらの基本理念ともつながる部分が必要になってくる。

今出されている案は1から6までありますが、6つを統合して7というのがあってもいいわけです。

案に掲げてあるキーワードを考えて少し絞った意見をいただければと思います。

松本委員：

このキーワードの中で岡崎らしいとか、岡崎がまさに使えるというのは「風格あるまち」ではないかと思います。これは岡崎は使っていると思う。ただ都市計画マスタープラン(以下「都市マス」)でも使用しているので、ちょっと重複してしまう部分にはなるのですが。

「緑が彩る」というのもいいと思う。緑が新しい生活を彩る、岡崎の姿を彩るという感じがいいと思ったんですが、「彩る」というのと「風格」というのがちょっと言葉として相反する感じがする。彩る、住み続けたい、活気あるというのがつながると思いますが、風格ある、にはちょっと落とし込めないなど。そこをうまくできたらいいなと思う。

近藤委員：

私は案6がいいと思いました。「一歩先の暮らし」は「未来」につながるので、緑と未来を歩むというのがまさに、私が表現したいことに近い。緑がないと生き残れないというのを切に考えたいということです。

「歴史」も今までそれを作ってくれた方々の上に今あってその先を作る自分たちをイメージした言葉なんです。さらにもう一歩、昔の偉業に頼らず、世界からここを目指してもらえよう、自分たちがやっていくんだというようなイメージが良いと思います。

三矢オブザーバー：

先ほども言ったが風格というようなキーワードは岡崎らしさとして良いと思います。一方で近藤委員が仰ったような、「緑と未来を歩むまち」ってあまりよそでは聞いたことがないですね。確かに一歩先というキーワードと相性を考えると、そういう考えもありそうでいいなと思う。

今西委員長：

一歩先、確かに十年先の計画を立てるわけですから継続性も求められる。歩むというのは継続性のある言葉かな、と思います。「育む」もそうだし「持続可能」も続けていくというイメージ、未来

につながる部分がありますね。

松本委員：

緑と一緒に未来を歩む、いいですね。だからここにさらに風格あるまちにすればいい。「緑と未来を歩む風格あるまち、おかざき」いいじゃないですか。

今西委員長：

今の岡崎は風格あるまちだからそれを持ったまま緑と歩んでいきましょう、10年先を目指していきましょう、というようなイメージですね。

松本委員：

おかざきは平仮名にして。そうすると都市マスのほうとの差別化がはかれるんじゃないでしょうか。

事務局：

まとめると「緑と未来を歩む風格あるまち おかざき」というもので、岡崎市という歴史的な重みをつみ重ねてきたのを風格という言葉で表しつつ、今後の緑を生かしていくというのと、緑とこの先続いていく感じですね。

事務局：

緑と未来を歩む風格あるまち おかざき、でいいと思います。ただ細かいことを言うと。おかざきというのが総合政策指針では平仮名で都市マスでは漢字となっていて、これはどっちがいいのかな、というのがひとつ思うところがあります。

松本委員：

総合政策指針で漢字にすると全部漢字になってしまうんですね。ひらがなで分かりやすければ馴染むのかなと。緑と歩む風格あるまち それが岡崎だ、というような。

近藤委員：

「ともに」という言葉を添えるとより強調されるかなと思います。

今西委員長：

非常に大きな理念だと思います。

松本委員：

守るべきものとこれから作っていくもの、両方が含まれるからいいフレーズになるのではないかな。片方によらず、非常に幅広くとらえられる計画だよ、ということです。ちょっと長くなってしまうけど。

今西委員長：

「緑とともに未来を歩む風格あるまち おかざき」 この案にさせていただいて、後の細かい部分は市の内部とか都市マスともすり合わせて、一つの案として考えていただければと思います。

2.2 基本目標について

【説明】

【質疑応答】

今西委員長：

資料1の下部分が基本目標になりますが、今回の目標は前回計画の5点から4点に絞りますよ、新たな目標にしていきますよということですね。その詳細、この少し先を見越した施策まで想定すると資料3のような整理になるということですね。図面については目標に対応するような将来図のようなものとみてよいのでしょうか。

事務局：

当初は将来図を入れる想定だったのですが、今後これを作っていくとか具体的な場所、案というのがそこまで定まっていないというところがあり、既存のところであげております。将来構造図というわけではなく今回考えました基本目標の各範囲に対応するエリアという意味で、現状岡崎市でこういった場所といったところで考えております。

今西委員長：

これについては現状分析図みたいな形なんですね。

事務局：

そうなります。

三矢オブザーバー：

私がここに呼ばれているのは公園愛護運営会に実際現場に携わっている関係からというところで、それを踏まえて今回、この基本目標に直接どう反映していいかわからず喋るんですけども。

いま愛護運営会での議論で現地視察の時に聞いていると、公園を豊かに使ってほしいという思いで市としては例えば規制を緩和したり活動メニューを用意するんだけど、意外と地域の集会所だとかお寺の境内だとかの代替施設がある。要するにこちらが想定した「公園でより豊かなこんな使い方ができたらいいいよね」というコンテンツというのが、意外とすでに別の場所で実現可能というのがあって、じゃあわざわざ新しく愛護運営会が作らなくていいよねという話で留まってしまうことが意外とあるんですね。ただ、そういうことはある意味まちづくり全体としてはいいことだとも

思うんです。岡崎市民が結構豊かに、地域のオープンスペースとか緑がある空間を使ってるじゃないかということで。それは公園愛護運営会を広めたいっていう立場からすると、ああ、進められなかったっていうマイナスの評価になってしまうんだけど、ほんとに岡崎のまちづくりとしては、すでにいろんな場所がすごく豊かに活用されてるんだよねっていうことが見えてきているということ、これをなんとかうまく計画に表現できないかなと思うんですね。愛護運営会を使わずとも、かなりなことが地域でできているということは伝えたいです。

もう一つ、愛護運営会との関係から思っているのは、緑の基本計画における愛護運営会は基本的には人材育成とかソフトとしての政策に位置づけられているんですけども、いざ地域に入っていくとこれが結構ハードの議論にもなってしまいます。実際公園のほうも老朽化しているだとか、使いにくいだとか、具体的なある地域ではスポーツをしている方の路上駐車が気になるだとか、一部駐車場もうちょっとなんとかならんかとか、じゃあちょっとここに入口を作ってくれと助かるだとかいろんな話が出てくる。大規模改修じゃないけど、ちょっと使い勝手を上げるためのハード的な工事の要望がちょいちょい上がってくるんです。

愛護運営会というキーワードを入れていくときに、ソフト利用を高めるところと一部ハードにも影響があるよ、というのを織り込んだ計画にしておいてもらうとなおいいんじゃないかなと思っています。

今西委員長：

ハードだけソフトだと分けて突き詰めていくのではなくて、そのこのところのつながりは必ず出てくるよ、ということですね。公園部局だけで進めていくと、どうしても行き詰ったりだとか、継続性がなくなってしまうので、他の部局とも十分に調整しながら進めていってほしいということでもあると思います。

事務局：

今のお話を伺って思いましたのは、公園の改修というのはある程度実施しているんですが、これは予算の問題もあるので毎年3箇所、順番にこことここみたいなことをやっているのが現状です。それを、今言われたソフト（愛護運営会）が立ち上がって活動しようとしているところを少し優先的にするとか、そういう対応の仕方があるのかなと今聞いて思いました。

三矢オブザーバー：

多分、施策をうまく打ち出せばそういったところを優先的にやっていくだとか、そういったことは可能だと思います。やはりそこが求められているところだからそこにお金を使っていきましょうっていうと市民の理解も得られるわけであって、行政が単純に順番を決めて、例えば古いところから順番に直していくとかそういうことじゃないよということを意識していければと思います。

事務局：

改修するにしても、例えば昔の公園の三種の神器、遊具があるから遊具を直さなきゃいけないという直し方に現状ではなっているんですが、ほんとうは今は遊具がなくてもいいけど入り口がこっ

ちにあったほうが使いやすいとか、そういう柔軟な対応があるのかなと今思いました。

今西委員長：

これからは足し算の世界だけじゃなくて、引き算もやりながら整備計画だとか維持管理方針計画というのを作っていかうということですね。

基本目標 2 の絵のところにも、公園の再編や集約といったところの内容が書いてあるんですが、ここで施設の老朽化ですとか、そういったところの機能の重複、ニーズの低下などを考慮しつつ、魅力や機能の向上に努めますとか説明は書いてあるんです。ここに対して今の地域のニーズをどう拾っていくかですとか反映させるかというのが、今の発言につながってくるような書き方にできるのかなと思います。

近藤委員：

基本目標は、前回の 5 つから 4 つになってよりシンプルになったのかなと思います。多分今回一番重要なのは、基本目標 4 の「人のつながりと学びによる緑の育成」のところで、ここは今後伸びるというか、今まであまり力が入っていなかった気がするので、今後伸びてほしいなと思う部分です。いずれも重要視して力を入れていってもらいたい部分ではあるのですが、多分公園や緑というのは使っていくと見えてくる部分が大きいので、それでハードのほうにつなげていくという話になると思うんです。今まで使っていなくて見えていなかっただけの部分もあると思うので、このソフト部分を伸ばしてもらって、見えてくる場所が増えていくと、今後また公園がよりよく活用されていくのではないかなと思います。

自然との共生というの、今まで知らなかったら知らないで触れないですんでいた森の中の話とか、そういうことを教育的ななにかをきっかけに知ってもらえればそこにも目が行くし、安全かどうかというのすべて視点がそこに置かれたときに初めて気づくことなので。それを気付かせるのが教育だと思います。緑という枠組みの中で、4 つの内容すべてに気づかせるための教育というのが何かしら落とし込めていくといいかなと思います。

今西委員長：

確かに緑を作ったり守ったり活用したりするのは全て人が関わるので、その関わる人を今いる人だけでなく、未来につながる人をどうやって育成していくのかという、非常に重要なことだと思います。それには人が活躍する場所だとか、フィールドもあわせてつながりを持たせていかないとだめだよというところですね。

松本委員：

私もこれ、4 つの基本目標の柱はいいなと思っています。確かにすっきりしたし、それぞれが役割をはっきりさせている。これをかみ砕いてみると、1 番がいわゆる農地とかあるいは森林保全の部分ですね。

2 番目がいわゆる施設としての緑で、街路樹だとか公園とかその辺の整備方針になる。3 番目はこれはいわゆる岡崎らしいところで歴史文化、寺社の緑等々だと。

ところがそうすると、この基本目標 3 と基本目標 2 は一部重なってるなという気がしているんです。施策という意味では重なるな、そこがちょっとすっきりしないなと思うんです。表面的には安全安心に資するまちづくりと、岡崎の歴史文化との緑ということでそういう意味では分かれているんですが。施策として落とし込むときに、すっきり分けるのは難しくなりそうだなという危惧がちょっとあるんですね。

そういう意味では基本目標 3 と基本目標 2 で書き込む、あるいは基本目標 2 の範疇となる都市公園のところは基本目標 3 のほうに落とし込んでしまうような形でもいいのかなと。

私はこの分野の専門家でもないんですが、基本目標 4 はすごく期待するところで、緑とともに未来を歩むならこの基本目標 4 は欠かせないと思いまして、そういう意味ではここに書き込んでもらうことにもっとチャレンジングなことをかけないのかなという気がしています。例えば近藤委員があの奥殿陣屋でされている活動なんかはどうでしょうか。

近藤委員：

あれはクラブ活動という名前でやっています。

松本委員：

何か形容はないんですか。流行りの言葉でいうコミュニティガーデンとは違うのでしょうか。

近藤委員：

コミュニティガーデンはそのコミュニティにいる人がやるものなんですけど、奥殿陣屋の場合は公共空間を維持するということにかかってくる。公共空間を一緒に作りながら学ぶというのがポイントなんですね。景観を作ることと学びがセットになっている。

松本委員：

そういうのをここの基本目標 4 にぜひ入れてもらいたいなと思ってます。そういう意味では愛護運営会も一種のコミュニティガーデンになるのかな。名称としてはそっちのほうがいいと思うんですよ。Park-PFI なんかも今度岡崎でやりますし、そんなのももっと入れてもらいたいと思っています。

あるいはどこかの地区で自分たちのまちを花壇を飾りましょうとかそういう活動は無いのでしょうか。

事務局：

地域花壇というのでそれぞれにある花壇、そこで活動していただくというのはやっております。

松本委員：

伝馬通でフラワーポットとかやって、ああいうのもすごくいいなと思うんです。なにかそういうちょっと新しいワードで未来を歩むというのがわかるといいなと。

三矢オブザーバー：

最近建築とかの分野で「東京 R 不動産」の馬場さんがプレイスマネージャーというキーワードを掲げていて、その場の空間の質とか、そこが居心地のいい空間にするにはどうしたらいいかなと子守りする人の重要性を最近説いているんです。そういうことと緑のある豊かな暮らしとか、公園というのがつながってくるんじゃないかな。

松本委員：

ここはまだ今後の議論になると思いますが、基本目標 1 と 2 のところで気になっているのは主な道路軸ということで表現していますね。これは主要な道路そのものなのですが、この道路軸が緑とのかかわりでいうと、ここがちゃんと街路樹が整備されてこれからもちゃんと維持管理育成していくよという方針が立っているんであればいいんですが、なんらかの工事、整備事業で街路樹なくなっちゃうよ、みたいなのが入っているところはきちんと精査していかないといけない。いわゆる街路樹がざっとつながるような道路をちゃんとしっかりと選定してもらったほうがいいかなという気がしています。

それから基本目標 3 の部分。主な歴史文化的資源ということで有名なお寺などがプロットされていますが、緑という意味ではその辺の小さなお寺でも緑はあってちゃんと残っているので、もっと明確に計画に位置づけたらどうか。あるいはほかの資料になるのかもしれませんが、ここに載せることであんなに岡崎って緑があるんだよねってわかると思うんです。そういう資料の作り方をしてもらってもいいのではないのでしょうか。

今西委員長：

各基本目標については、事前説明のときから最後のところをそれぞれ「保全」、「創出」、「活用」、「育成」とそれぞれちゃんと変えていただけてすっきりしたなというふうに思います。あとこだわる部分としては、先ほど松本委員も言われましたがここにも岡崎らしさが何とか出てこないかなというところです。例えば安全快適とかでもどこでも一緒なんですよ。なんとかアイデアを絞って、岡崎らしさがでてくるといいなと思うんですよね。

あと、「花と緑」が基本目標に出ていたと思うんですが、今回、緑の中に花が入ってるとはいえると思うんだけど、なんとなくその要素が今全部なくなっちゃってる。暮らしの快適性だとかそういうところに花の部分を入れていかないと、多分施策的には花壇だとか住民が関わる部分も出てくるんだろうと思うので、少しちょっとそこは落とし込んでほしいなという気がします。

それから基本目標のそれぞれの 4 つの図ですが、これは確か一番最初に聞いたときは将来構想図だったんですが、現況分析図だとするとどうやって計画本編のほうに入れ込むんだらうというのがあるんですね。多分基本目標だとか基本方針だとかに関連するとなると、誰しも将来図だと思うわけですよね、なのに中身は現況しか入ってませんだと、やっぱりどうつながるんだというのがあ

る。本来は将来構想図であるべきだというふうに私は思うんですね。

そういったところでいくと書きっぷりも、例えば基本目標 2 の「安全で快適なまちづくりを支える緑の創出」なんかでも、防災拠点となる都市公園というのは今の図で示されているのは「災害対応施設が設置された主要な都市公園」で、だから現況なんだと思うんですけど、地域防災計画に位置付けられた公園というのはほんとにこれだけなのでしょうか。もっとあるはずじゃないかと。災害対応施設が設置された公園がこれから設置されるべきなんだろうと、それを示していくのがそれが基本計画なんだと思うんですね。

だから現況に留まるような図でいくのか、個別の細かい配置だとなかなか難しいとは思いますが、もう少し将来像的なものがわかるものにしていかないといかんという気がしてならない。

街路樹については松本委員が仰っていただいたのでまさしくそうだと思います。道路＝緑の軸ではないと思うので、道路をうまく使って緑の軸を作っていくんだよというのをしっかり意識してほしい。

あともう一つ、私も松本委員と一緒に、基本目標 3 の歴史文化の資産が図面を見るとえっこれだけ？と思っちゃったんですね。細かいところまでは把握できないので申し訳ないんだけどもっとあるんじゃないのって。例えばふるさとの森であればもっとある、全部落とすと大変だと思うんですけどある意味もっと前面に打ち出してもいいんじゃないという気がしますね。

これくらいの配置で良しとしてしまうのか、やっぱりこういった区域にはもうちょっと緑が欲しいよねというのが出てくるのかは非常に大事なところだと思います。

基本目標の 4 点については皆さんも内容、文言的にも異論はないと思いますがその詳細なところもう少し岡崎らしさを出すなりしてもらえるといいかなと思います。

近藤委員：

今西委員長に言われていて思い出したんですが、確かに花がないですね。基本目標 1 と 2 のところで両方「グリーンインフラ」という文言になっていてちょっと気になっていて、1 のほうは広域の範囲の話なのでグリーンインフラでいいと思うんですけど、2 のほうのグリーンインフラは単なる緑でもいいと思うんです。そこに花と緑をセットで入れてもらえると身近な緑の話がここに落とし込まれるのかなと。その身近なところには是非花を入れてもらいたい。

松本委員：

近藤委員のおっしゃる通りと私も思います。あと、このへん僕は専門じゃないので教えてほしいんですけど少し前までは生物多様性みたいなことが盛んに言われていましたが、緑と生物というのはあんまりリンクさせないほうがいいんですか。要は生物というのが全然出てきていないので、そこはどうなっているのかなと。

事務局：

基本目標の言葉の中で生物という言葉は出てきてはないのですが、基本目標 1 を中心に、それ以外でも動物の住処というような位置づけでそういったものも含めて自然との共生の基盤となるっていう部分に入ってくるのかなと考えております。

松本委員：

そこに含めているということで読めるということですね。

今西委員長：

基本目標 1 の図面の下のところには生物多様性出てくるんですよね、生物多様性コアエリアだとか。多様な自然環境の緑を適切に保全するという農地などの案と生物多様性を支える緑を適切に保全するとかそんな感じだとつながるというところでしょうか。

松本委員：

生物多様性に関しては H24 年に策定された地域戦略があるんですね。

事務局：

はい。

松本委員：

是非それでじゃあ入れていただこうがいいかなと。せっかくこれそれぞれで下に説明がエリアだとか、この辺を文章にうまく取り込んでいただいて漏れがないようにしていただくとつながりいいのかなと思います。

事務局：

もう一回見直させていただきます。

2.3 市民アンケート結果速報について

【説明】

【質疑応答】

今西委員長：

中間報告ということで最終的な数ではないということですが、傾向としてはこれで概ね見られると思いますので感想も含めてご意見を頂ければと思います。

松本委員：

これは事務局も仰られてましたが、地区と年齢によってだいぶ意識が違うなと思うので、そこはやっぱり知りたいと思いますので集計していただければなと。そうしますと、どういう年代のどういう地区にどういう政策を打っていかってというのが見えてくるかと思いますので、それが非常に重要だと思います。今回の年齢回答を見ると60代以上が約半分、子育て世代が少ないですね。これはこれでしょうがないと思いますが、やはり年代によって意識はだいぶ違うと思いますんでそこを見させて頂きたいです。

今西委員長：

是非クロス集計といいますか男女だとか年齢層だとかの分析をしていただけると傾向がでてくると思うんです。そうすると岡崎としてやらなければならないこととか炙りだされると思うんですよ。それをいかに今までまとめてきつつある目標だとか方針なんかに施策をくっつけていくのにぜひ活用していきたいという風に思います。

近藤委員：

細かいところの指摘になりますが、「今後高めていくべき緑」の項目で気候変動の影響低減というところで、ここはかなり関心が高いのがわかるんですけど。これももう少し分けても良かったんじゃないかと。それぞれヒートアイランドだけでもないしCO2吸収だけでもないし、いろんな対策が緑ができることであって、それぞれ一緒に気候変動っていうよりはもうすこし分けたほうが対策の優先順位というか、そういうことがしやすかったように思います。全部必要だとは思いますが、例えばヒートアイランドと一言でいっても割と都市の話であって、岡崎ではあまり感じない気がしないでもないんです。CO2吸収というのも森があるのであまり岡崎市は切迫した感じが無い、漠然とそうなんだろうぐらいな感じで見ているところがあると思います。

多分岡崎市は緑という点ではすごく恵まれているので、どうしてもこれが必要、緑がほんと必要なんですっていうのをあまり意識しないまま割と今まで来てしまっている部分があるかと思うんですが、都会に行くとこのへんがすごく生命維持にかかわってくるので、ほんとに緑がないと暑すぎてつらいとか、身近に植物が植わってないとか木がないことで結構ダメージを受けているのを感じているので、緑を増やさないといけないというのが伝わると思うんですけど。岡崎市に住んでいるとその必然性がわかりづらかったりするので。

緑を増やす施策というよりも、「こういうところにこれだけの緑の量があるのでこういう快適な暮らしができている岡崎市」というのを見える化することができるのかなと思います。公園とか緑がすごく沢山あるにも関わらず、利用する習慣がないとか身近な公園に魅力ある施設がないっていう回答がかなりある。回答にもあるように庭があるからそこまで行く必要ないという方も多いと思うんですが、せっかく整備された公園が活用されないまま放置されてしまうような状況だけは避けたいなと思いますので。

関わり方の強弱はあると思うんですけど、その公園自体に少なくとも近くにいる人がその公園に愛着が持てるような形のなにかしらの仕組みづくりをしてもらえるといいのかなと思います。子供とかペットとかがいなくて公園を活用しないのではなくて、もう少し利用のバリエーションが増えるといろんな世代の人が公園に関わったりとか、愛着を持てるような活動ができる。まあある

程度余裕がないとできないこともあるとは思いますが。

せっかくある公園、せっかくある緑の魅力とか意味合いが伝わらないまま、なんとなくそこに存在しているだけというよりは、もう少しいろんなことが伝わって、緑や公園があってよかったと思える施策を打ち出してもらえるといいのかなと。これはアンケート見ての感想ですね。

もったいないというか、岡崎はすごく贅沢に緑があるのに多分そんなに緊迫してないというか困っていないだろうと思う。困ってないと減ることに気が付かない、気が付いたら緑が少なくなっていたということにもなりかねないので、必然性をもう少しわかってもらえるようなことができるといいかなと思っています。

今西委員長：

確かに気候変動の影響だとかいうのは日常茶飯事でそういう情報が入ってくるもので、自分のことだけでなく日本全体とかで大きな意味で答えてしまっているのかもしれないですね。岡崎の市民という立場ではなく答えてるんじゃないかと。今話を聞いていてちょっと思いました。

それから一つ、公園を利用する習慣がないという回答が割とあるのが私もびっくりしたんですけど、今まで行政は一生懸命施設を作ったからどうぞ使って頂戴ねっていうところから、公園に行くきっかけだったり必然性というのをこれからはどう作っていくのか、そういうのはこれからの施策に必要なことだろうということが、こういった結果からも読み込めるかなという気がしますね。

私のほうからも少し感想めいたことを言うところの結果をどう踏まえてどう施策を打っていくかというところを吟味していかないといけないなと思いますね。

例えば 3 ページの大事にしていくべき緑、公園の緑だとか街路樹だとかあるわけですから、じゃあこれを大事にしていくという市民の意識をどう施策につないで岡崎市としてどのように守っていくのかということ。増やすべき緑もそうですよね。

身近な公園については、約 6 割の人が身近に利用してる公園がないよという回答なんですね。そういう人たちは、(公園が) いるのかいないのかわからないというのがちょっとわからない。今利用してる公園がないからいないと思っているのか、今はないけどほしいと思っているのかによって次の施策で変わってくると思うので、各地区での分析をやらないといけないのかなという気がします。

また、利用してる公園種別の割合なんですが、これ岡崎の特徴かどうかかわからないですが、市内には総合公園って二つしかないはずなんですよ、東公園と南公園。なのにこれが 20.7 パーセント占めている。

歴史公園も岡崎公園ですけど 6.7 パーセントある。この辺が愛知県レベルとか国レベルでも同様なのか違いがあるのか、ちょっと確認してもらいたいと思います。そこはちょっと私は興味本位で見ちゃったんですけど、せっかく市民アンケートをやったのだからそれに対してどう答えていくかというのが具体的な施策に反映させるべき部分だと思いますので、是非次の段階で具体的な施策を立てていくときには活用していただきたいと思います。

今後、最終的な集計は別に出るということですね、数字が多少変わるだけだと思いますけど。

事務局：

はい、数字が多少変わるのとクロス集計もやりたいと思いますので、そちらはまた改めてご報告させていただきます。

松本委員：

公園使う習慣があるという人が4割で、私なんかも習慣といえないほうなのですが、これはどうやったら使うようになるのでしょうか。例えば日本の公園とヨーロッパの公園って全然違うじゃないですか。何が違うかっていうと向こうってグラウンドとかないですよ。きれいな花とか緑があって季節が感じられて池があって鳥がたくさんいてなんか自然なんですよ。でもすごく管理が行き届いていて、いわば都会にあるオアシスなんですよ。岡崎ではそういう公園ってあるんですか。

近藤委員：

公園はそもそもそういう目線で見てないという気がします。もともと日本の公園制度というのはヨーロッパの形を真似してまずは作られてると思うんですけど、真似の仕方が表面だけなのであまり本質的なところまで真似ていない気がするんですよ。なのでなぜ人が集まってくるのだとかわからないまま形だけ真似ている。ヨーロッパの公園で公園に行く理由、公園が施策としてやろうとしていることは4つあるんです。

一つは「アドベンチャー」これは冒険をするために行くってことです。

二つめは「レクリエーション」健康とか体を動かす、日常的に体を動かすために行くこと。

三つめは「エスケープ」息抜きに行く、ということ。

最後は「エデュケーション」学習、学ぶために行く、ですね。

この4つをどこの公園も積極的に行うんです。なのでどんなに地方であれどんなに人が行きづらいところであってもこの4つを用意してあれば、どこからでも人がやってきて公園を活用して帰っていくってことがある。それをヨーロッパの人たちは一般の普通の人だけではなくて障がい者の方向けにも冒険をちゃんと用意しようということをやっている、それをそこまで今日本では真似できていないので、それ以前に一般の人にとってもこれらが用意されていないので行かないというところなのかなと感じています。積極的にこちらがソフト部分を準備していないので、行かないのではないかと私は思っています。

多分地方都市とか人を呼んで観光地化しないといけないと思っているところはそういう冒険施設があったり人が呼べるような環境を作って投資して、きれいな花だったりきれいな環境を作って頑張って人を呼べるようにしてると思うんですが、岡崎はそれをしなくても人が来るので、その切迫感を持って作っていないような気がします。その辺がわざわざ公園に行かなかったり使わなかったりする理由かなとちょっと感じている。岡崎は地方都市でないというか、人が通りかかる場所ではあるので本当の地方都市に比べるとそういう焦りがないような気がするんですね。公園を使うためのシステムを何かしら用意してもらうと多分行きやすいのかなと。大きなお金をかけたりとか大きな事業でなくていいので、日常的に少し気軽に何かに参加できるレクリエーションだったり学びの場だったり、アドベンチャーということ、散歩コースがほしい、危険を伴っても面白い感じのものがあったりというものが用意されてると行ってみようかなというきっかけになる。今はその辺

が足りないと感じます。

今回のアンケートをみても、エスケープとレクリエーションのみでアドベンチャーとエデュケーションがないと感じるのでそのへんが多分行くきっかけのポイントなのかなと思います。

事務局：

今のお話に関して思ったことが二つあって、一つは本市の場合、公園の中に野球場といいますかそういう運動施設が入ってるんですよね、正直言ってその運動施設のお守りをするのはスポーツ振興課であって、それは実は公園管理者と非常に相性がよろしくないというのがあって。本市独特のことなのか日本の公園行政ゆえにそうなってしまうのかはわからないのですが。この点はやはり一つ整備というか考え直す必要があるのかなと思ったのが一点です。

二点目は、近藤先生の言うエデュケーションという視点がおそらく決定的に欠けているなど。今回、籠田公園をリニューアルしたなかでアドベンチャー的要素は少し意識しています。小山を作ったりとかですね。ただ、3つの要素はあっても4つ目の要素（教育）は全く今までそこに盛り込もう思ったことがないというか考えたこともなかったので、今後その要素を押さえていくことができると、例えば地域の住民の人の何らかの意思の高揚だったり、あるいはいま周辺の町内会の人たちが籠田公園で共同して何かやろうという動きがありまして、ひょっとしてそれが学びの要素になるのかもしれない。いずれにせよ、今後何か仕掛けをするときはその学びという要素をより積極的に意識する必要があるのかなと思いました。

今西委員長：

公園に関する日本と欧米の違いという、日本の場合、規模の問題と開放性の問題だと私は思っていて、それはそれで必要だから閉鎖的な空間にしていた部分があると思うんですけど、典型的なのは外周に植栽をやったりフェンスをやったり囲い込んでしまうやり方ですね。それは子供たちを安全に遊ばせるためというのもあるんですけど、そもそも規模が小さいからやらざるを得ない。大きければやらなくてもボールも飛び出さない。公園そのものの規模と開放性の問題が大きいかなという気がしています。

それから教育の問題、運動施設の問題もそうなんですけど公園管理者と教育委員会だとか、学校だってグラウンドがあるわけですから別に公園で野球場なくても学校が使えればそれでいいんですよね。公園でやらなくてもいいわけです。運動には学校が使えれば公園の広場はもっと違うことに使えるのかなと。

これはどこの都市も一緒だと思うんですけど、公園管理者と教育委員会だとか、それから観光部局だとか、河川、道路、そういった関連部局がいかに緑の基本計画の中身を共有しながら一緒になって施策を進めていくかという、推進体制をきちんと築き上げていくというのが最後は大事だろうと思います。

最後のところでも推進体制みたいなものを明確にして他の部局にもきちんと伝わるようにお願いしたいと思います。

以上